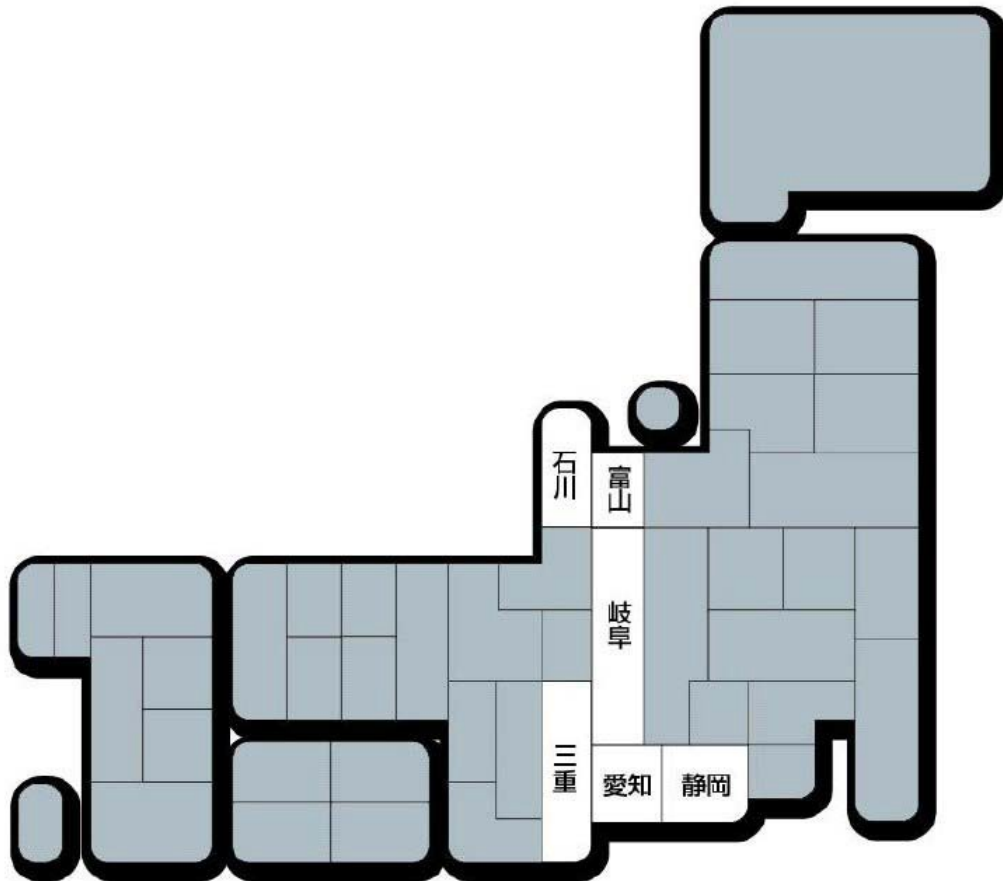


# 東海北陸国立病院薬剤師会 会誌



THP Tokai Hokuriku National Hospital Pharmacists Association



Vol.35  
2026.3

# 目次

【巻頭言】			
	医王病院	渡邊幸雄	..... 1
【施設紹介】			
	豊橋医療センター	南谷 浄	..... 3
【委員会報告】			
○教育研修委員会			
	名古屋医療センター	平島 学	..... 4
○業務推進委員会			
	東名古屋病院	安藤 舞	..... 13
○学術研究委員会			
	三重病院	山本 高範	..... 16
【編集後記】			..... 19

薬剤師の働き方は、私が入職した 30 年前とは大きく姿を変えました。今回、巻頭言を書く機会をいただき、自身のこれまでを振り返っています

私のスタートは薬剤科長と薬剤師 1 名、助手 2 名という小さな療養所でした。職員数が少なかった分、医師や看護師、リハビリ職員、調理師など他職種との距離はとても近く、自然と顔の見える関係が築かれていました。

当時は、病棟業務、調剤だけで勤務時間が終わり、発注や資料作成などは時間外に行うのが当たり前でした。いまで言うと“ブラック？”でしょうか。それでも不思議と、充実感がありました。

病院には野球部があり、「若手男子は参加するもの」という空気の中、私も参加しておりました。夏の 17 時半はまだ明るく、日が沈んでボールが見えなくなるまで汗を流しました。その後、院内のお風呂に入り、再び薬剤科へ戻って仕事の続きをする——今思えば、のどかで、少し無茶な日常でした。こうした活動を通じて、職種を超えたつながりが自然と生まれていました。

また、当時の金沢病院では月 1 回の勉強会があり、近隣施設の若手薬剤師が集まって学び合っていました。施設を越えた交流は大きな刺激となり、自身の視野を広げてくれる貴重な時間でした。

東海北陸薬剤師会では、総会後には懇親会もあり、新人は半ば恒例行事のように参加。余興は楽しくもあり、少し苦い思い出でもあります。しかし、遠方から集まる仲間と語り合う時間は、薬剤師会としての一体感を強く感じられる場でもありました。

その後、新型コロナウイルス感染症の流行により、私たちの交流の形は大きく変わりました。大勢が一堂に会する機会は減り、オンラインが主流になり、効率性は高まりましたが、偶然の出会いや雑談から生まれる学びは少なくなったようにも感じます。昔は昔で、それなりに良い時代だった——そう思うのです。

近年、「ワークライフバランス」という言葉が広く浸透しました。しかし私が大切にしたいのは、「ライフワークバランス」という考え方です。仕事と生活を切り分けて対立的に考えるのではなく、人生という大きな枠組みの中で、仕事をどう位置づけ、どう調和させていくか。

薬剤師は、人々の健康と向き合う専門職です。その使命感ややりがいは、人生を豊かにする力を持っています。だからこそ、自身の健康や家族との時間、学びや地域活動といった“仕事以外の時間”も大切にしてほしいと思います。それが結果的に、専門職として長く活躍し続ける力になります。

多様な働き方の推進、タスクシフト、デジタル化の活用、そして互いを尊重し支え合う職場文化の醸成。これらは組織として取り組むべき課題です。同時に、私たち一人ひとりが「自分はどんな薬剤師として、どんな人生を歩みたいのか」を主体的に描くことも求められています。

30年前と今では、環境も価値も大きく異なります。ですが、人と人とのつながりの大切さ、学び続ける姿勢、そして仕事を通じて社会に貢献する喜びは、これからも変わらないと思います。皆さんが、自分らしい「ライフワークバランス」を見つけ、しなやかに、そして力強く、NHOとともに歩んでいかれることを心から願っています。

## 豊橋医療センター 薬剤部紹介

医薬品情報管理主任 南谷 浄

豊橋医療センターは、東三河地域の中心都市・豊橋市で100年以上にわたり地域医療を支えてきた急性期病院です。364床・23診療科を備え、特に外科系診療科が充実しており、年間3,000件を超える救急搬送を受け入れています。一方で、48床の緩和ケア病棟や40床の重症心身障害（重心）病棟も有し、急性期・終末期・セーフネット系医療まで幅広い医療ニーズに応える体制を整えている点が大きな特徴です。

薬剤部の定員は15名、現在は育休・産休により13名（うち時短勤務3名）で運営しています。

このような状況下ですが、病棟薬剤業務実施加算を継続し、薬剤管理指導件数は月1,000件を超えるなど、確かな成果を上げています。

また、専門性の高い業務にも積極的に取り組んでいます。「がん薬物療法体制充実加算」を算定し、レジメン管理、副作用モニタリング、外来化学療法室との連携など、薬剤師が「がん治療」に深く関わっています。

最近では入院時支援加算の算定を開始し、入院前の内服薬・外用薬確認や周術期の薬物管理（術前休薬）など、入院前から薬剤師が治療に関わっています。さらに、重心病棟での薬剤管理指導も開始し、処方内容の定期的な確認やポリファーマシー対策など、安全で質の高い薬物療法の提供に努めています。

そして、豊橋医療センター薬剤部では、業務改善活動（QC活動）の文化があります。全国特別優秀賞、東海北陸ブロック特別優秀賞、国立病院機構本部表彰（優秀賞）など、数々の受賞歴があり、若手の意見やひらめきが実際に現場を変えています。

まとめると、豊橋医療センター薬剤部は、急性期・終末期・セーフネット系医療まで幅広い医療に関わることのできる、子育て世代の薬剤師も働きやすい職場です。



## 教育研修委員会の活動報告(令和 8 年 3 月)

教育研修委員長

平島 学

今年の「けっこういいぞ！！NHO 薬剤師 LIVE 2026」は、例年好評な「1 年目のリアル」に加え、がん、DMAT、循環器、結核の第一線で活躍する「エース薬剤師」にフォーカスを当てて講演いただきました。日頃の専門性を生かした活動内容を紹介いただき、薬学生にとって刺激となる内容だったかと思えます。また、薬学生の事前アンケートで非常に興味の高かった「病院の配属」「転勤の頻度」「勤務形態」に関しては、「病院薬剤師のキャリアパス・NHO の福利厚生」として薬事専門職の林誠先生よりご紹介いただきました。演者からの講演後に「薬学生からの質問コーナー」の時間を設け、事前質問に対して、座長から演者へ質問をしていくことで NHO で働く薬剤師のリアルな声を、薬学生にお届けできました。

参加いただいた薬学生からは非常に高い評価をいただくことができました。

東海北陸グループのホームページや YouTube にて、過去動画も公開しておりますので薬学実習生の指導や病院見学希望者への紹介等にもぜひご活用ください。

NHO-PAD に関しては、昨年同様 NHO-PAD を用いた評価を実施しました。2 月に令和 6 年度入職者の 4 回目と令和 7 年度入職者の 2 回目の自己評価、他者評価を行っていただきました。評価結果は、集計が完了次第、お送りしますので、今後の指導・教育にご活用ください。

今回は、「けっこういいぞ！！NHO 薬剤師 LIVE 2026」についてご紹介したいと思います。

◆ けっこういいぞ！！NHO 薬剤師 2026 LIVE

開催日:令和8年2月27日(金)

開催方法:Microsoft Teams

受講生 : 50名(薬学生24名)



令和8年2月27日に薬学生を対象とした「けっこういいぞ！！NHO 薬剤師 2026 LIVE」を開催しました。「けっこういいぞ！！NHO 薬剤師 2026 LIVE」は、入職1年目の薬剤師、専門領域で活躍している薬剤師、薬事専門職より、NHOで働く薬剤師からのリアルな声を薬学生に届けるためのセミナーです。当日は薬学生24名に参加いただき、大変盛況な会となりました。

石川病院 薬剤科長の矢野先生、豊橋医療センター 副薬剤科長の井上先生の軽快な座長進行のもと、NHOの病院薬剤師が具体的にイメージすることができるよう、毎年好評な「1年目のリアル」では、薬学生に最も近い薬剤師の先輩として、名古屋医療センター 永井先生より「NHOに入ったきっかけ」、「1年目の流れ」、「1日のスケジュール」を中心に、業務内容の紹介から始まり、様々な不安を抱えながらも入職して良かった点などリアルな内容を講演いただきました。

薬学生の事前アンケートからは、専門分野で活躍する薬剤師にも興味を持っている声が多く聞かれますので、「がん領域」を名古屋医療センター 櫻井先生、「DMAT」を三重中央医療センター 大井先生、「循環器領域」を静岡医療センター 高木先生、「結核」を東名古屋病院 中村先生に、それぞれの「エース薬剤師」として、病棟での取り組みについてわかりやすくご紹介いただきました。

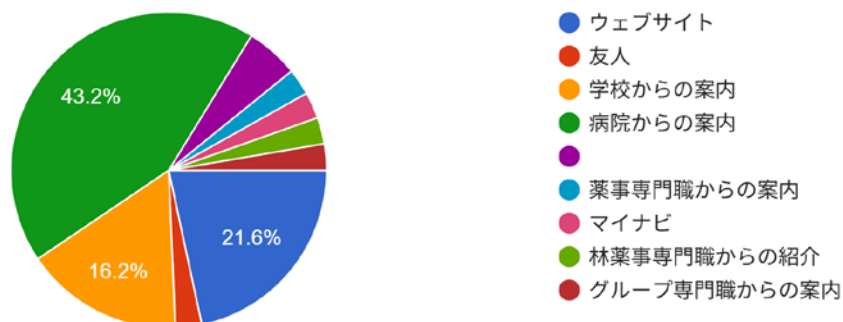
最後に「病院薬剤師のキャリアパス・NHOの福利厚生」として、学生から最も質問の多い、採用選考、配属先・転勤、給与面や福利厚生などを薬事専門職の林先生よりご紹介いただきました。

演者の講演終了後には薬学生からの質問コーナーを設け、事前アンケートでいただいた質問に加え、当日チャット欄に記載いただいた質問に、座長の矢野先生、井上先生が各演者に質問を投げかけて回答いただくことで、NHOのリアルな薬剤師の働き方を薬学生に対して十分に伝えることができた会となりました。

薬学生に本セミナー自体を知っていただくために、今回も各施設の先生方へ宣伝のご協力を要請させていただきました。多くの先生方のご尽力のおかげで今年度も多くの薬学生に参加いただくことができ、参加者へのアンケートの 37 件の回答のうち 43.2%が「病院からの案内」という結果でした。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

このイベントのことを、どのようにしてお知りになりましたか。

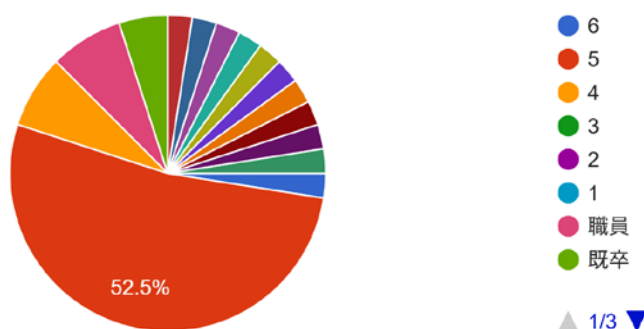
37 件の回答



40 名から事前申し込まいただき、事前アンケートに結果から、うち 21 名(52.5%)が5年生でした。愛知学院大学、名城大学、岐阜医療科学大学、金城学院大学、富山大学、鈴鹿医療科学、安田女子大学、大阪大学、摂南大学、北陸大学、山陽小野田市立山口東京理科大学、神戸学院大学、岐阜薬科大学、東京薬科大学、京都薬科大学の薬学生から申し込まいただき、東海北陸エリア以外の大学からも注目いただいていることがわかります。事前質問で多かったものとして「1年目の勤務地」「異動」「転勤」「NHO を選んだ決め手」「NHO 強み・力を入れている取り組み」などに特に興味があるようでした。

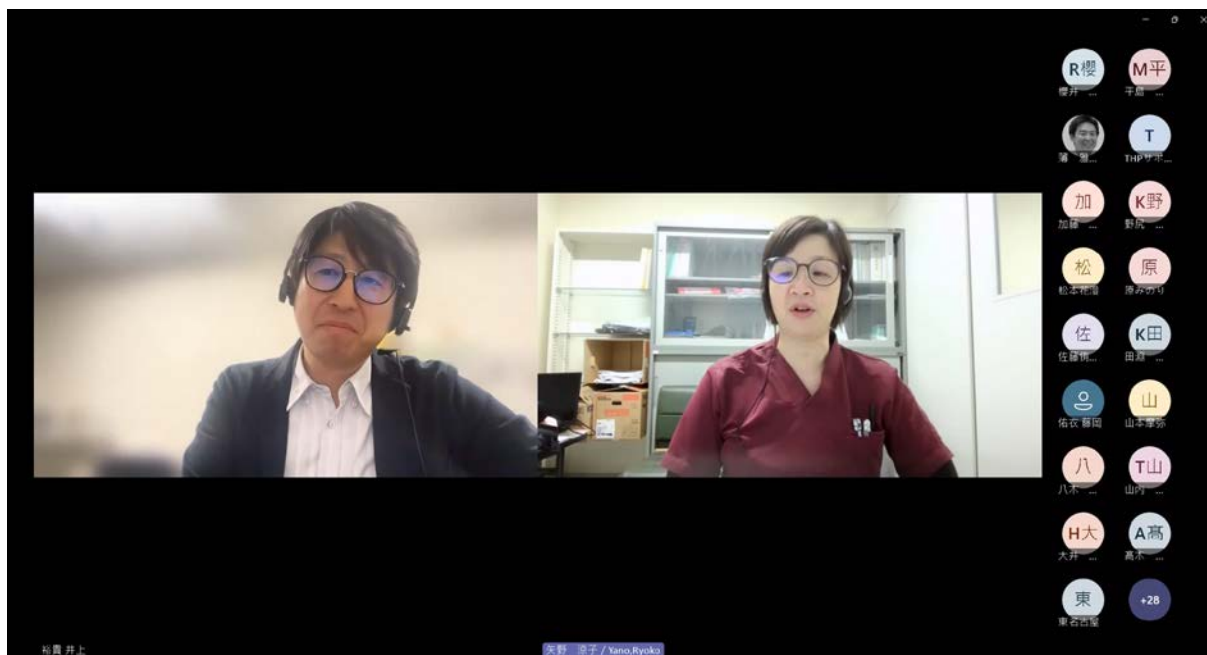
学年（今日現在）をご記入ください

40 件の回答

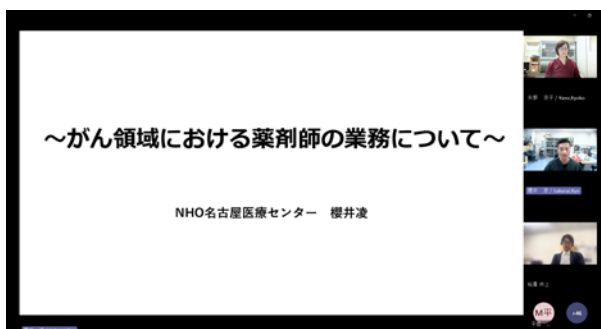


# セミナー中の風景

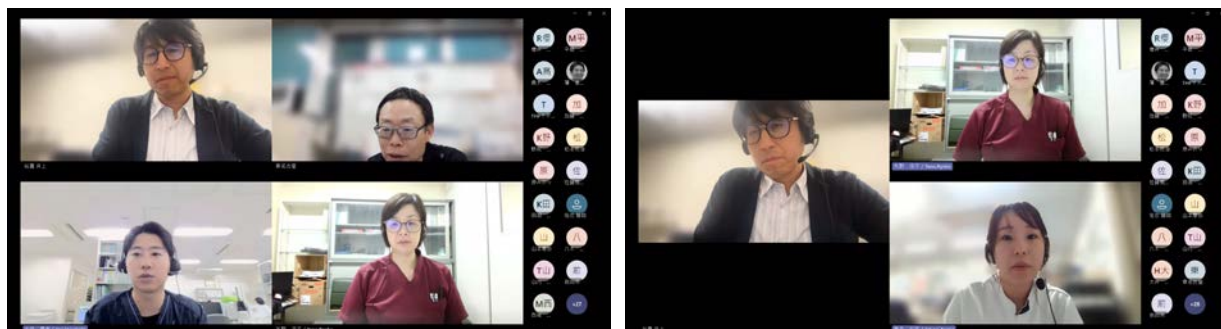
座長の矢野先生と井上先生



# 演者の発表風景

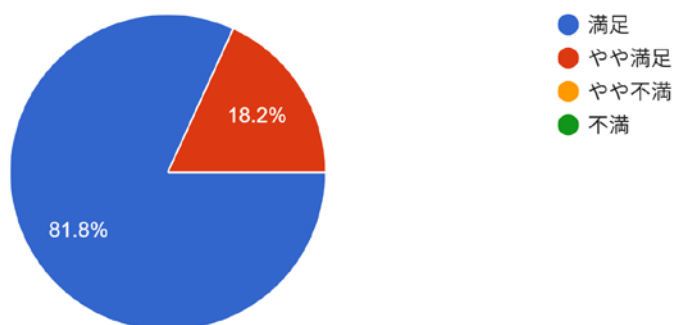


## 薬学生からの質問コーナーの風景



セミナー事後のアンケートに 22 名の参加者に回答いただきました。

「けっこういいぞ!! NHO薬剤師 2026 LIVE」の満足度を教えてください  
22 件の回答



本セミナーは参加者から非常に高い満足度が得られており、満足度の理由について、様々な立場で活躍している病院薬剤師の経験や専門性を知れたこと、NHO ならではの慢性期病院の魅力を知ることができたこと、転勤のメリットを確認できたことなどを通して、NHO の特徴や NHO 薬剤師の業務内容について、お伝えできたのではないかと手ごたえを感じています。

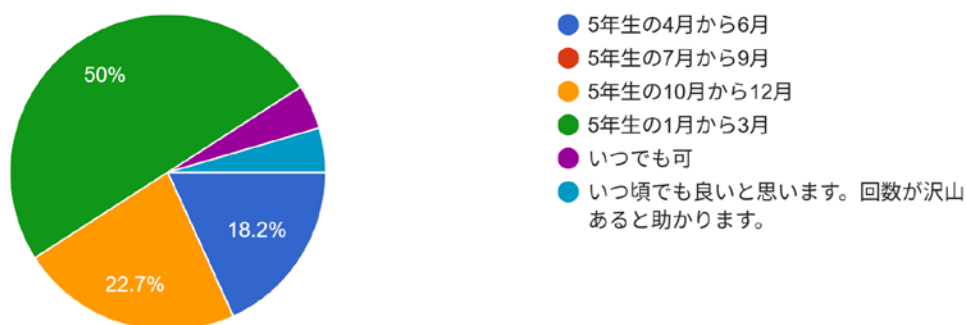
## 満足度の理由

- ・たくさんの角度からお話が聞けて楽しかったです。
- ・国立病院機構ならではの魅力を感じられました。
- ・多施設の先輩方の貴重な意見を聞くことができ、転勤のメリットについて再度確認することができた。
- ・新人薬剤師の方のお話だけでなく、長く勤めている薬剤師さんのお話も聞かせていただけて良かったからです。
- ・様々な働き方を知ることができました
- ・実際に NHO で活躍されている、それぞれ様々な経歴を持つ先生方のお話を広く伺うことができ、将来のビジョンが明るくなったと感じたため。
- ・急性期の病院ばかり調べていたため、慢性期病院での薬剤師の役割についてイメージができていませんでした。今回、セーフティネットの機能を持つ病院で働く先生から薬剤師の仕事について詳しくお話いただけたことで、急性期とは違った役割を見つけることができました。
- ・各病院の特徴含め薬剤師の方が多く話してくださったことで、現場のリアルを知ることができたと感じたため。
- ・各先生の活躍に刺激を受けました
- ・様々な専門的知識とそこで働く魅力を紹介していただき、自分の中で薬剤師としての選択肢が増えるような内容でした。
- ・少し時間が長いと感じた
- ・就職活動で重視することや就職後の動きが実際に聞けたから
- ・学生の目線で考えると、就職しようかなと思える内容であった。
- ・わかりやすい説明や、質問を答えてくださった点です。
- ・実際に働いている薬剤師さんのお話を聞けたため、また、質問コーナーでの学びもあったため
- ・様々な立場や現場の方から情報を発信していただけた
- ・実際の現場で働く薬剤師の先生方の話を直接聞くことができたため。
- ・一つの国立病院機構の病院だけでなく、さまざまな専門のお話も含めて大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・様々な場面で活躍されている先輩方のお話をお聞きすることができたから。
- ・病院の特色や、病院の探し方、考え方、働いてみたら感じる事など、さなざまなことがわかった。
- ・がん専門薬剤師の資格取得を考えておりますので、専門薬剤師の方々のお話を聞くことができたからです。
- ・急性期を希望していましたが、慢性期での業務にも魅力を感じました。
- ・様々な分野に特化した人のお話を聞くことができたため。また、新しい資格である心不全療養指導士についてもお伺いすることができ興味深かったです。

また、開催時期について例年と同様、5年生の1-3月が最も回答が多く、10-12月、4-6月にも要望がありました。そこでオンデマンド配信の準備を進め、東海北陸グループHP等に公開したいと考えています。

### 開催時期はいつ頃が適切ですか？

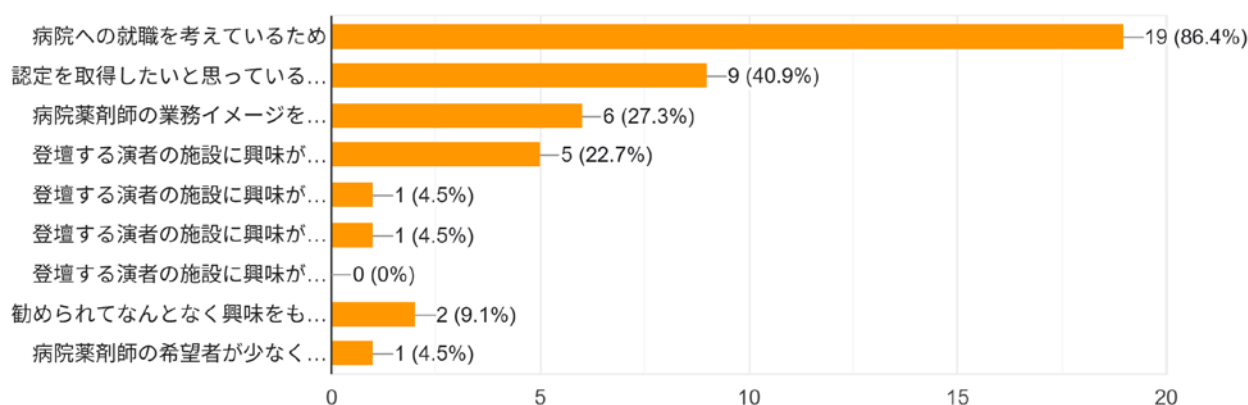
22件の回答



参加した理由としては「病院への就職を考えているため」が最も多く、「認定を取得したいと思っているから」が次に多い結果でした。就職先の第一志望を病院と回答した学生は90.9%でしたので病院への就職希望のある学生に参加いただけたものと思います。

### 「けっこういいぞ!! NHO薬剤師 2026 LIVE」に参加した理由として近いものを教えてください (複数回答可)

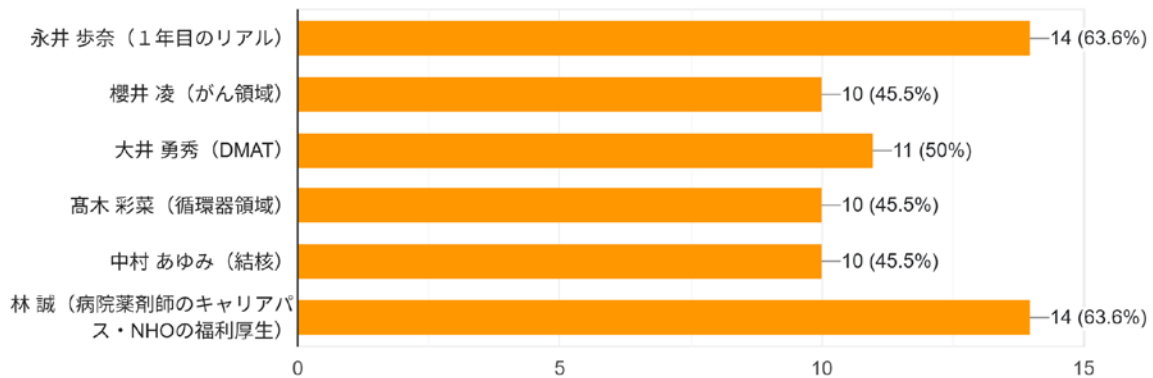
22件の回答



例年人気のある「1年目のリアル」に加え、すべての講演が多くの参加者の印象に残ったセミナーとなりました。印象に残った理由にも非常に多くの参加者から回答をいただき、ポジティブな意見をたくさんいただくことができました。

## 印象に残ったパネリストを教えてください（複数回答可）

22件の回答



## 印象に残った理由

- ・結核は薬物療法が中心となるため、薬剤師の必要性をより深く感じることができました。
- ・どの先生方も貴重なお話で楽しく聞くことができた
- ・具体的に働くイメージがつきやすかったからです。
- ・就活の際の入手した情報と、実際の現場でのギャップを知ることができるため
- ・「新人の働き方」「福利厚生」の2点が、就活生としては特に知りたい情報であったため。
- ・中村先生の発表では、急性期の病院とはまた違った薬剤師の仕事を学ぶことができました。
- ・私は大災害を経験したことがなく、災害時医療についてのイメージがあまりできていませんでした。今回の大井先生の発表で、災害医療への参加も将来病院薬剤師として必要であると感じ、視野を広げていかなければならないと気付くことができました。
- ・永井先生のお話では、1年目のリアルということで就職後の日程などかなり詳細にお話いただいたので印象に残りました。林先生のお話では、福利厚生やキャリアパスなど知りたかったことをお話いただいたので印象に残りました。
- ・ありがとうございました。
- ・すばらしい講演でした
- ・薬剤師になってからどのような研修があり、どのように薬剤師業務を習得して行くのか紹介があり、知ることができて有意義な時間でした。また、学校では学べない災害時の対応のリアルな話を聞いてとても勉強になりました。
- ・災害医療に興味があるから。
- ・新人としての動きや専門分野ならではの薬剤師の話も聞けたから
- ・笑顔が素敵。明るい雰囲気よかった。演出もあるかもしれないが、会の目的を考えると必要不可欠であると思った。楽しそうに司会者の先生も話しかけていたのでそれも良かった。
- ・実際の一年目働き方や募集を聞いたため。
- ・元々がんの領域に興味があって、実際に転勤しながらキャリアを積んでいけることを知れたため
- ・自分自身がDMATと循環器領域に興味を持って色々調べていたから
- ・自分と近い年齢の方のお話を聞いたのと、自分ががん領域に興味があったため。

- ・静岡出身なので、高木先生のご講演はとても参考になりました。結核に関しては教科書以外のお話もあって勉強になりました。
- ・1年目の働き方が1番身近であるから。がんについては興味があるため。キャリアパスや福利厚生は就活をする上で選択の基準となるから。
- ・それぞれに特色が濃く、興味深かった
- ・病院薬剤師になるにあたり、病院薬剤師のやりがいと自分の生活を担保するための給与、福利厚生が自分に合っているのかも重視しており、キャリアパスは非常に大事だと考えているからです。
- ・2026年の診療報酬改定により、注目される心不全治療の取り組みについて知ることが出来ました。また、結核治療における薬剤相互作用や薬薬連携の重要性を学びました。
- ・1年目の方のリアルな働き方について聞かせていただく機会が初めてでした。就職後のリアルな働き方、有給について知ることができ印象に残りました。

「けっこういいぞ！！NHO 薬剤師 2026 LIVE」には、NHOに本当に興味をもっている薬学生が真剣に参加してくれている印象があります。NHOの雰囲気の良いさをリアルに伝えられる素晴らしい機会かと思しますので、今後もよりよいセミナーとなるように講演内容をブラッシュアップしていきたいと思えます。

ご協力いただきました先生方、本当にありがとうございました。

## 業務推進委員会活動報告(令和8年3月)

業務推進委員会委員長  
安藤 舞

業務推進委員会は、今年度より新メンバーを加えて活動して参りました。

昨年度に引き続き、研修や業務量調査などの目的をより明確にするために委員会を「業務向上小委員会」、「業務改善小委員会」、「業務共有小委員会」の小委員会に分類し活動しております。

今回は2025年10月から2026年3月までの各小委員会の活動を報告させていただきます。

### 《業務推進委員会コアメンバー》

委員長	安藤 舞(東名古屋病院)
副委員長	細江 慎吾(静岡てんかん神経医療センター) 竹田 あかね(豊橋医療センター)
小委員会 コアメンバー	磯部 忠良(静岡てんかん神経医療センター) 伊藤 朱里(医王病院) 伊藤 大輔(静岡医療センター) 稲垣 雄一(静岡医療センター) 小島 朋大(鈴鹿病院) 坂井 翔太(名古屋医療センター) 春田 桃歩(三重中央医療センター) 深尾 那実(名古屋医療センター) 松岡 哲平(七尾病院) 松岡 まりあ(金沢医療センター) 山梨 領太(名古屋医療センター) 山本 正和(石川病院)

### ◆業務向上小委員会◆

#### ① THP プレアボイド大賞 WG

小委員長:松岡、山梨

この小委員会では、各施設の優良プレアボイド情報を収集・共有することで、日々の薬剤師業務内容の参考・向上につなげることを目的としています。

2025年6月の総会にて第7回 THP プレアボイド大賞の結果を報告させていただき、各施設に賞状、副賞を授与しました。

現在第8回 THP プレアボイド大賞準備のため各施設よりプレアボイドを収集し、評価を依頼しています。

## ◆業務改善小委員会◆

### ① 働き方改善 WG

小委員長:磯部、山本

このWGでは、家庭を持った薬剤師が働きながら業務をどのように両立させているかをインタビュー形式で聞き取りを行います。その内容をTHP会員で共有し、働き方を参考にし、会員で考えていくことを目的としています。

家庭を持たれている薬剤師の先生だけでなく、これから家庭を築かれる予定の先生方にもご一読いただき、今後の働き方の参考の一例としていただければと思います。

育児休暇を取得した男性薬剤師にインタビュー2025年6月に「PharMAMA・PharPAPA～子育てしながら働く薬剤師～ Vol.9」を投函いたしました。

現在 Vol.10 作成に向けインタビューを行っています。

Vol.1～9については、THP HP 業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご確認ください。

<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html>

### ② QC 活動 多施設共同 QC

小委員長:稲垣、伊藤朱、小島

業務推進委員会ではQC活動の推進も行っており、定期的な研修会を行っていました。新たな他施設共同QCを行うため、新メンバーを加えてテーマを選定中です。

### ③ 医療者のためのコミュニケーション研修(MBTI®を使って)＜教育研修委員会との共催＞

小委員長:深尾、安藤、竹田

MBTIは人の多様性や自分の心を理解することを目的として作られた、世界で最も有名な国際規格に基づいた性格検査の一つです。2025年9月に名古屋医療センターで令和7年度医療者のためのコミュニケーション研修(MBTI®を使って)を開催しました。昨年度に引き続き外部委託研修として開催し、MBTIの認定ユーザーである大里 洋一先生をお招きしました。セルフチェックリストによるタイプ分類を行い、グループワークによって自分の潜在意識の中にあるタイプを深く検証し、確定させていきます。

## ◆業務共有小委員会◆

### ① 薬薬連携 WG

小委員長:松岡ま、伊藤大、春田

このWGでは、THPの各施設で実施している薬薬連携を紹介して、薬薬連携の推進を目的としています。

今年度は薬剤総合評価調整加算についての取り組みを収集し、アンケート結果や各施設で使用しているフォームなどを2026年3月にTHP HPへ掲載しました。

過去の取り組みについては、THP HP 業務推進委員会書庫(下記リンクから会員ページに入ってください)よりご確認ください。

<http://www.tokaihokuriku-nhp.jp/kaishi/index.html>

② チーム医療

小委員長：山本、深尾

2025年度のチーム医療担当者名簿を作成し、2025年9月に全会員に配布しました。

以上、委員会報告となります。

業務推進委員会では、少しでもTHP会員の業務遂行能力の向上や業務の効率化、業務の共有につながればと考えております。お時間あるときにHPをご覧ください、会員の皆様の業務にお役立ていただきますようお願いいたします。

2026年3月6日

令和7年度後期学術研究委員会活動報告

学術研究委員会委員長 山本高範

1. 令和7年度会員研究実績 (2025年10月～2026年3月)

国内外学術誌掲載 (査読あり)

- 1) 上野晴菜  
「投与間隔に注意が必要な注射薬の処方監査支援システムの導入が処方監査の効率化および精度に及ぼす影響」 日本病院薬剤師会雑誌
- 2) 八杉美咲  
「病棟薬剤師が新生児おむつ皮膚炎に対する 亜鉛華軟膏の塗布による高亜鉛血症に早期介入した一症例」 YAKUGAKU ZASSHI
- 3) 鈴木亮平  
「病院薬剤師・薬局薬剤師間と薬剤師・多職種間における 高齢者総合機能評価項目を紹介した情報連携の実態調査」 日本老年薬学会雑誌

2. 令和7年度 後期活動報告

○令和7年度東海北陸国立病院薬剤師会 研究・取り組み発表会

日時：2026年2月1日(日) 13時00分～17時00分

開催方法：ハイブリッド開催

◆サテライト会場は名古屋医療、金沢医療、静岡医療、三重中央、豊橋医療の5会場

参加者：98名

(静岡会場9名、名古屋会場10名、金沢会場14名、三重会場19名、豊橋会場5名、Web参加41名)

プログラム

司会：山本 高範 (三重病院)

13時00分～14時40分

セッション1 若手薬剤師の1年間の成果報告

座長：大井 勇秀 (三重中央医療センター)

大月 慎之助 (金沢医療センター)

- 1) 慢性心不全患者の療養支援における薬薬連携への取り組み  
伊藤 礼治 (金沢医療センター)
- 2) 整形外科病棟における高齢者のポリファーマシー対策  
加藤 拓真 (金沢医療センター)
- 3) 富山赴任22ヶ月  
青木 茉佑子 (富山病院)
- 4) 再発性脳腫瘍患者への薬学的介入  
永井 歩奈 (名古屋医療センター)

- 5) 切除不能進行胃癌に対する FOLFOX+Nivo 療法中にオキサリプラチン過敏症が発現した1例を通して学んだこと

森川 和那 (豊橋医療センター)

- 6) 1年間の成果報告

井上 星乃華 (富山病院)

- 7) PBPM を用いて不眠時指示薬の変更に関与した症例

野中 祐貴子 (三重中央医療センター)

- 8) 重症心身障がい者病棟を中心とした一年の活動報告

小椋 圭祐 (長良医療センター)

- 9) 鈴鹿病院での1年

石田 真由 (鈴鹿病院)

休憩 10分

14時50分～15時50分

セッション2 取り組み報告

座長：松木 克仁 (名古屋医療センター)

- 10) シームレスな医療を目指した薬局との連携モデル確立への取り組み

飯塚 千晶 (静岡医療センター)

- 11) 当院での院内処方における疑義照会の事前合意プロトコール導入の取り組み

東 拓馬 (三重中央医療センター)

- 12) 調剤室の業務効率化の取り組み～入院支援に関わる電話削減～

金森 敏伸 (三重中央医療センター)

- 13) 当院の重症心身障害者病棟における薬剤師としての取り組み

杉田 望月 (石川病院)

15時40分～16時20分

セッション3 研究発表

座長：鈴木 亮平 (三重中央医療センター)

- 14) ニンテダニブを使用した肺線維症患者における下痢症状の発現リスク因子に関する検討

岩田 あやみ (長良医療センター)

- 15) 高齢者を対象とした過活動膀胱治療薬の心不全発症リスク

佐々木 咲輝 (金沢医療センター)

- 16) セフェピム誘発性肝障害の発現予測に対する肝線維化指標 Fibrosis-4 index の関連および予測精度に関する単施設症例対照研究

勝 弘毅 (名古屋医療センター)

休憩 5分

16時25分～

セッション4 特別企画

座長：山本 吉章 (金沢医療センター)

- 17) 臨床研究、やってみたらこうだった

地田 凌 (東名古屋病院)

大井 勇秀 (三重中央医療センター)

鈴木 亮平 (三重中央医療センター)

### 3. 学術研究委員会主催の勉強会

- 「Web 論文抄読会」

日時：11/20 (木)、1/22 (木) 17時30分～18時30分

場所：Zoom

11/20: 尿路感染後の SGLT2 阻害薬開始は、安全かつメリットがあるのか

1/22: 心房細動患者に抗凝固薬のアンダードーズは有効か？

- 「臨床研究の進め方に関するオンデマンド研修会」

日時 (予定) : 2026年3月14日 (土)

場所 (予定) : 現地+オンデマンド (4月以降予定)

### 4. 後期活動の統括

昨年に引き続き2月に研究・取り組み発表会を開催した。若手薬剤師の成果報告、院内での取り組み報告、研究発表、特別企画等、計19演題の発表があり有意義な会となった。学術研究委員会主催の勉強会は継続して行った。次年度も継続して開催する予定である。

学会発表数が年々減少しており、若手のモチベーション向上と次世代の研究リーダーの育成が急務である。今後も研究活動を通じ、会員のプレゼン力、文章力、実行力、遂行能力など研究スキル向上を目標に努めていく所存である。

会誌 Vol.35 を発行します。

今回も会誌発行にあたり原稿依頼にご協力していただいた先生方ありがとうございました。特に巻頭言につきましては、自分なりにテーマを決めるところからなので大変だったと思います。今回、退職間近のお忙しい時期に巻頭言を担当していただきました渡邊先生には感謝申し上げます。会員の皆様にも「自分らしいライフワークバランス」について考えていただければと思います。

東海北陸国立病院薬剤師会会誌 第 35 号 令和 8 年 3 月発行

発行元 東海北陸国立病院薬剤師会

(独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター薬剤部内)

発行人 会長 竹内 正紀 (三重中央医療センター)

編集 広報担当理事 三井 陽二 (天竜病院)

